

年実施しているアンケートによると、毎日朝食を食べる、早寝早起きをする、嫌いな食べ物でも食べようとすると回答した児童生徒数はいずれも増加している。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進し、児童生徒の食生活をはじめとした基本的生活習慣の確立に取り組んでいきたい。

遍路ブームを生かした丸亀の魅力発信を

◎藤田議員 遍路ブームで全国から多くのお遍路さんが来ている。おもてなしで、丸亀の魅力を発信してはどうか。

▲市長 全国から来られたお遍路さんとの交流は、観光振興や地域の活性化につながると考えている。現在、市民ひろばに建



こんびら街道ポケットパーク

設を計画している（仮称）うちわ記念館・物産館内にお遍路さんの接待や交流を行うスペースの設置を検討するなど、お遍路さんのおもてなしを通じた本市の魅力発信に取り組んでいきたい。

合併10周年PR

シンボルマークの活用を

◎水本議員 瀬戸内国際芸術祭では関係者がオリジナルTシャツを着用してイベントを盛り上げた。合併10周年記念事業でも職員がシンボルマーク入りのTシャツを着用し、市が一体となった取り組みであることをアピールしてはどうか。

▲市長公室長 現在のところ、シンボルマークが入った名札を職員が着用し、合併10周年のPRに努める予定としている。職員が着用するTシャツなどのユニフォーム作成については、今後検討していきたい。

丸亀で

起業しやすくなる施策を

◎内田議員 丸亀で事業を起こ

しやすくなるような施策はあるのか。また、融資制度に今以上の工夫が必要ではないのか。

▲産業文化部長 本市では産業振興計画に基づき、販路開拓などに取り組む中小企業への補助や創業者向けの新風融資制度の実施など、各種支援を行っている。さらなる支援の充実のため起業家を対象とした補助制度の創設を検討する。融資制度についても関係機関と協議し、さらに利用しやすい制度となるよう整備をしていきたい。

ネット社会に即した研修を

◎佐野議員 市職員や教職員の情報ネットワークに関する知識や能力の向上が必要だと考えるが、市の見解は。

▲総務部長 市職員には情報セキュリティをはじめ、各種の研修を実施している。今後も時代に即した研修を実施していきたい。

▲教育部長 近年、児童生徒がインターネット上のトラブルに巻き込まれる事例が多くなっている。教職員にネットトラブル

などに関する研修を実施し、児童生徒への指導に役立てたい。

障害者の移動支援施策充実を

◎中谷議員 障害者施策の福祉タクシーの助成券をその場で使える金券とし、せめて初乗運賃程度に引き上げること、対象者を身障手帳2級にも広げることとを求める。また、リフトカーの貸し出しを行い、障害者の移動支援の充実を求める。

▲健康福祉部長 福祉タクシーは金券方式への変更を検討する。対象範囲の拡大と助成額の引き上げは難しい。

▲市長 リフトカーは新年度の実施に向けて社会福祉協議会と協議する。



社会福祉協議会のリフトカー

総務委員会

7月
7~9日

蒲郡競艇
西尾市
一宮市

西尾市の
公共施設再編計画

西尾市は、合併協議の「新市基本計画」に、公共施設の統合と適正配置の方針が示されるなど、早い段階から将来を見据えた合併協議を行っていました。合併当初から専任チームを立ち上げ、ロードマップの作成、公共施設概要調査の取りまとめ、パブリックコメントを経て「西尾市公共施設再配置基本計画」を策定。その後、公共施設の劣化調査、白書の改定、第一次実



新西尾市庁舎の広いロビー



プロジェクターを使って報告

施計画を策定し、並行して公共施設再配置モデル事業など「見える化」をキーワードにプロセスの明示化と市民への浸透に力を入れていく点が特徴的でした。またメールによる意見提出の手法や、西尾式PFIなど、市民と共に、また、地域で公共施設の再配置を考えていることを強く感じました。

これら市民の意見を取り入れるなど、すぐれた基本戦略を本市の大手町周辺整備に取り入れられるよう、検討を進めてまいります。

生活環境委員会

7月
16~18日

相模原市
小田原市
生駒市

相模原市南清掃工場

相模原市は、ごみ処理の基本方針として、4Rの推進と循環型スタイルの確立、資源を循環させる社会システムの構築、市民・事業者・行政の協働によるごみを出さない環境づくりを掲げていました。

さらに、一般廃棄物最終処分場の延命化促進のため、排出される灰から溶融スラグを生成し、道路資材として公共事業への活用を図っていました。



工場内を見学

小田原市消防の広域化

消防広域化について、平成25年3月31日に、神奈川県西地域2市5町（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、

山北町、開成町）で実施。消防広域化により、小田原市消防と足柄消防組合の二つの組織が統合されました。事務は小田原市に委託しています。職員身分の関係もあり、事務組合ではなく事務委託としたようでした。



小田原市での説明

生駒市の
空き家・空き地対策

生駒市では、周辺住民の安全を守るため、条例に代執行を明記したようですが、条例に代執行を入れることで、空き家を維持管理していかなければならないという空き家に対する意識改革や啓発など、市民へのPRにもなることでした。条例制定後は、所有者調査が条例を根拠にできるようになりました。

都市経済委員会

7月
22~24日

姫路市
泉南市
神戸市

都市経済委員会は「お城を中心とした観光施策」で姫路市、「水道料金の制度と改正」で泉南市、「有害鳥獣対策」で神戸市を視察しました。

姫路市では、ゆるキャラを使つての全国キャラバンやお城周辺での姫路ゆかたまつりなどのイベントを行っています。また、外国人客が増加しているので、観光パンフレットは、中国語・韓国語・フランス語で作成し、各観光施設は日本語・英語の表記としています。

丸亀城もここ数年観光客が増え、外国人向けに観光パンフレットなどの外国語表記や外国語を話せるスタッフの確保などを検討する必要性を感じました。泉南市では、浄水場の維持管理、耐震化、水の取水量、人員の問題などを考慮し、平成26年度から大阪広域水道事業団より100%受水しています。

今後の水需要の低下、節水意識の高まりなどを考慮して、制度と料金の改定を行ってきてお

り、丸亀市の当面の課題（水道の広域化、水道料金改定）を考えるうえで参考になりました。

神戸市では、多発するイノシシなどの被害に対し、市がイノシシ・鹿・ヌートリア・鳥類は猟友会に、アライグマは猟友会と捕獲事業者に捕獲を委託し、それらの事務を行うための鳥獣被害対策実施隊を設置しています。さらに、市街地にもイノシシが出没するので、①委託業者によるパトロールを行い、注意喚起や啓発②専門知識や技術を有する民間業者による追い払いを行い、個体数を減らす取り組み③餌付けをしている人を発見すれば、パトロール業者が指導を行い、なおも継続すれば勧告を行う、という餌付け禁止条例の制定などを行っています。今後、勧告にも従わない場合は、公表できるように条例改正を検討しています。

近年、増加する丸亀市での有害鳥獣被害に対する施策について大いに参考になりました。

教育民生委員会

10月
20~22日

名張市
横浜市
秦野市

本年4月から、生活困窮者自立支援法による支援制度が開始されます。そのため三重県名張市の「生活困窮者自立促進支援モデル事業」を視察しました。生活困窮者の支援にいち早く取り組んできた名張市の相談者への対応状況や支援上の課題について具体的に説明があり、先進市の事例は参考になりました。

横浜市では「学校課題解決支援チーム」について研修しました。本市でも学校教育サポート室が設置され、教育現場で起こる様々な問題を解決するための支援を行っています。今回の研



横浜市での研修

修では、専門家との連携方法など、本市サポート室の運営上で参考になる話を聞くことができました。神奈川県秦野市では「認定子ども園」を視察しました。



秦野市立つるまきこども園

市立つるまきこども園の園長から、こども園の設置に当たり、不安や疑問を持つ保護者に対応したか、職員の間で意思統一をどのようにしたのか——などの説明を受けました。保護者や市民の方への丁寧な説明が重要であることを改めて認識しました。

常任委員会では、市政発展に資するため、先進事例を視察し、調査・検討を行っています。

教育民生委員会

H26.11.19

誠心保育園はらだ分園を視察

耐震補強・改修工事完了

ゼロ歳児の
受け入れが
可能に

はらだ分園 視察の様子



ゼロ歳児室の設置工事に伴い、沐浴設備と調乳室の設置、床暖房の工事も行われました。



誠心保育園はらだ分園

(認可年月日 平成26年4月1日)

昨年の11月19日、誠心保育園はらだ分園の耐震補強および改修工事が完了したことを受け、教育民生委員会による視察を行いました。

近年、ゼロ歳児の入所希望者は増加傾向にあり、入所希望者に対して受け入れ可能数が不足している状況にあります。

耐震補強と改修工事が完了したことによって、安心した保育サービスの提供とゼロ歳児の受け入れが可能となり、待機児童の減少に向けた運営が期待されます。



子どもがよく利用する階段や遊具付近など、工事箇所以外にも気になるところがあるかどうか、目を通しました。

耐震補強をした遊戯室を視察しました。子どもたちの大切な「命」に関わる事だけに、委員も真剣です。



一生の宝物

昨年、高倉健さんがお亡くなりになりました。映画を通じて皆さんの思い出がある中、あるエピソードが紹介されていました。

東日本大震災の3日後、歯を食いしばりながら大きなペットボトルで水を運ぶ少年の写真が新聞に載りました。その少年と高倉健さんとは手紙のやり取りがあったのです。少年に「常に被災地を忘れないことを心に刻もうと撮影に臨んでいました」

「遠くからですが、あなたの成長を見守っています」という温かい言葉。少年は、くじけそうな時に、その言葉を思い出したそうです。そして高倉健さんが亡くなって「自分のようにこの手紙で勇気づけられる人もいるかもしれない」と公開しました。実は私もこの写真を当時見て、「被災地に行かなければ」と、ボランティアに行きました。

少年に手紙を宛てた高倉健さんの想い、それを支えに頑張っている、悲しいことを思い出さなくていい、気仙沼を楽しんでいるところ、にしたいと元気に語る少年の姿。これは、私の一生の宝物です。

広報広聴副委員長 加藤正員